

令和7年度シラバス (国語)

学番 中等1 新潟県立村上中等教育学校

教科(科目)	国語 (現代の国語)	単位数	2単位	学年 (系)	4学年
使用教科書	数研出版「現代の国語」				
副教材等	・数研出版『現代の国語 準拠ワーク』 ・尚文出版『頻出漢字マスター3000』 ・尚文出版『グラusstエツプ現代文1』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切に思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的に対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

本校においては大学等に進学を希望する生徒が大多数であることを踏まえ、

- ①基本的な語彙・漢字の知識、理解を基盤として、論理的な読解力と要約する力を育てます。
- ②法令文や対談など、多様な形式の文章に触れることで、読み比べたり関連付けたりして、文章を深く読む力を育てます。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしており、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

5 評価方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、小テスト ・ノート、ワークシート、発表などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、小テスト ・ノート、ワークシート、発表、発表原稿などから、評価します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、小テスト ・ワークシート、発表、発表原稿、授業態度などから、評価します。

6 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時数	評価方法
4	「読む」と「書く」 社会と文化	読む 4時間	「書けない日々」 若松 英輔	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ・文章中の表現について、文章の論理の展開を踏まえて説明する。 	2	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
			「コミュニケーション能力とは何か」 内田 樹	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。 ・同筆者の二つの文章の内容をもとに、表現に込められた著者の意図を説明する。 	2	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
5	社会と文化	読む 2時間 書く 5時間 話す・聞く 5時間	「水の東西」 山崎 正和	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。 ・文章内容に関連した具体例を探し、その内容を簡潔にまとめる。 	6	ワークシート (記述の点検)
			「ズームアップ文化」	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。 ・自文化とグローバリゼーションという観点から、実社会の中から適切な話題を決め、話し合う。 	6	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
6	新しい視点	書く 6時間	「わらしべ長者」の経済学 梶井 厚志 定期考査	<ul style="list-style-type: none"> ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。 ・筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめ、意見交換する。 	6	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)

6 7	新しい視点	読む 2時間 書く 6時間	「ポスト・プラ イバシー」 阪本 俊生	・推論の仕方を理解し使っている。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、 実社会の状況を踏まえて文章にまと める。	1 3	ワークシート (記述の点検)
		話す・聞 く5時間	「ズームアップ 情報とメディ ア」	・実社会の中から話題を決め、それ についてマス・メディアから発信され た情報と個人から送信された情報を 比較し、両者の違いについて話し合 う。		ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
9	ことばの働 き	読む 2時間	「ものごと ことば」 鈴木 孝夫 定期考査	・言葉には、認識や思考を支える働き があることを理解している。 ・文章内容に関連した具体例を探し、 その内容について詳細に調べる。	2	ワークシート (記述の点検)
10	環境と科学	読む 2時間	「動物園という メディア」 山本 茂行	・個別の情報と一般化された情報と の関係について理解している。 ・筆者の主張を踏まえた適切な実例 を考え発表する。	2	ワークシート (記述の点検)
		書く 5時間	「ズームアップ 環境問題のこれ から」	・実社会との関わりを考えるための 読書の意義と効用について理解を深 めている。 ・環境問題の国際的な取り決めや日 本の法律・条例を調べ発表する。	5	ワークシート (記述の確認) 発表の様子 (行動の確認)
11	人間と時間	読む 2時間 書く 5時間	「時間と自由の 関係について」 内山 節 定期考査	・実社会との関わりを考えるための 読書の意義と効用について理解を深 めている。 ・特定のテーマについての本を読み 感想文を書いた上で、その内容を発 表する。	7	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
12 1	認識の枠組 み	読む 2時間	「他者を理解す るとのこと」 鷺田 清一	・主張と論拠など情報と情報との関 係について理解している。	7	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
		話す・聞 く5時間	「ズームアップ 自己と他者の理 解とは」	・他者との相互理解のためにできる ことについて、具体的な事例を挙げ て話し合い、発表する。		
		読む 2時間 話す・聞 く5時間	「白」 原 研哉	・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、 直接的な述べ方や婉曲的な述べ方 について理解し使っている。 ・文章中の表現について、文章の論理 の展開を捉えて話し合う。	7	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)

2	問題を提起する	書く 5時間	「感情暴走社会の由来」 山極 寿一 定期考査	・条件にある、同意表現を導く「とは」や、逆接の接続詞「しかし」に注意し、筆者の考えの内容がわかるように説明している。 ・課題テーマについて、積極的に自分の考えを深め、筆者の文章を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめる。	5	ワークシート (記述の点検) 発表の様子 (行動の確認)
3	具体例を示す	書く 3時間	「動的平衡の回復」 福岡 伸一	・現状分析の箇所と結論部分とを的確	3	ワークシート (記述の点検)

計73時間 (48分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「話すこと・聞くこと」 20時間	B「書くこと」 35時間	C「読むこと」 18時間
-----------------	----------------------	-----------------	-----------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・ 読解や意見文などの課題の提出があります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。(指定図書読書レポートなど)

7 担当者からの一言

「現代の国語」は、実社会において必要とされる総合的な国語の資質・能力を育成する科目です。多様な形式の文章に触れ、論理的な読解力を高めていきましょう。また、探究編では主体的に学び、深める力を身につけていきましょう。毎時間の授業を大切に、理解が難しいところ、つまづきは授業内で解決しましょう。本授業を通じて、多様な視点から考える力を高めていけるように、ぜひ積極的な態度で臨んでほしいと思います。

(担当：千原 唯)